

2026 年 2 月 22 日午前 10 時 30 分

受難節第 1 主日 主日礼拝

司会 岩渕デボラ
奏楽 木戸恵美子

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば ヘブライ 2:17-18

讃美歌 296(1-3)「いのちのいのちよ」 一 同
交読詩編 91:1-13(P.105/101)

祈 り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》
加須教会 白岡菖蒲教会 和戸教会
(主の祈り)

讃美歌 296(4-6)「茨のかんむり」 一 同

聖 書 旧約:エレミヤ 31:27-34(P.1236)
新約:マルコ 1:12-15(P.61)

メッセージ『神との関係の回復』

祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 440「備えて祈れ」 一 同

《聖餐式(主の食卓) 讃 312(1-3)》

献 金 一 同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(レントの礼拝 第 1 主日) 一 同

頌 栄 312(5)

祝 祷 川上 盾 牧師
後 奏
報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18

イエスは、神の御前において憐れみ深い、
忠実な大祭司となって、民の罪を償うため
に、すべての点で兄弟たちと同じようになら
ねばならなかったのです。事実、御自身、試
練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受け
ている人たちを助けることがおできになるの
です。

《2 月礼拝当番》 植松みよ 徳江由利
大川原恵子 岩渕育雄
猿谷富子 長谷川瞳

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日 13:00 CS 午後礼拝 スタッフ会議
- ◎ 本日 15:00 地区壮年部総会 (渋川教会・ZOOM 併用)
- ◎ 24 日(火) 牧師、育心こども園
- ◎ 27 日(金) 牧師、共愛学園理事會
- ◎ 28 日(土) 10:00 会堂清掃 E 組

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『神の救いを認めない人々』

聖書:旧約:エレミヤ 2:7-11(P.1174)
新約:マルコ 3:20-30(P.66)

讃美歌 297, 291, 447, 1(4)

交読詩編 18:1-7(P.22/18)

司会:伊藤愛子 奏楽:徳江由利

◎3 月定例役員会 礼拝後

《予 告》

◎ 聖研祈祷会 3/4(水) 10:30 & 19:30

◎ 世界祈祷日集会 3/6(金)10:30
『ナイジェリアからのメッセージ』
於・バプテスト前橋教会

《報 告》

◎ 本日はレント(受難節)第一主日です



先週の水曜日からレントに入り、イエ
ス・キリストの十字架への歩みを覚える 40
日間が始まりました。今年もキャンドルの
火を一本ずつ消しながら、イエス・キリス
トの苦難を覚えましょう。本日はレントを
覚えて主の食卓に共にあずかります。レン
トが明ければイースター(復活祭)です。
今年のイースターは 4 月 5 日。イースター
に受洗・転入会を希望される方は牧師まで
お申し出下さい。特に洗礼を志望される方
は準備がありますので、お早めに。

◎「宣教キャッチフレーズ」を考えよう！

教会案内看板を利用して、道行く人に教
会が大切にしようと思っていることを届け
られる、短い文章を募集しています。イメ
ージは「お寺の掲示板」。ひとつだけでな
く、複数のキャッチフレーズを考えて掲げ、
その都度貼り換えていく...ということをも
考えています。難しい言葉ではなく、「こ
んな言葉が掲げている教会なら行ってみた
い」と思えるような言葉を、あなたのセン
スで考えてみませんか。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	54	22	31,360
婦人会例会	13		

《メッセージ》「舟の中で眠る人々」

ヨナ書 1:1-12, マルコ 4:35-41(2 月 15 日)

▼今週からレントが始まる。今日はレント前最後の日曜
日、その主日に示された聖書の箇所には、いずれも同じ
振る舞いをする人の姿が描かれている。それは「舟の中
で眠る人々」である。▼旧約はヨナ書。預言書の中では
珍しい、物語形式の内容である。ある日ヨナは神の召命
を受けニネベ(アッシリアの都)で滅びの預言をするよう
命じられる。しかし困難さを覚えたヨナはこれを拒否し、
神から逃れて舟に乗る。舟は突然の嵐に見舞われるが、
ヨナはその船底で熟睡してしまう。▼これは安らかな眠り
ではない。むしろ「どうにでもなれ!」というような、投げや
りな思いの中での「ふて寝」のようなものだ。しかし神はそ
れでもヨナを見捨てず、放り込まれた海の中で魚の腹の
中で命をなげえさせ、悔い改めへと導き預言者として
立ててゆく...と続くのだが、それはまた別の話。▼新約に
も同じように嵐の舟の中で熟睡するひとりの人の姿が描
かれる。その人とはイエス・キリストである。弟子たちと共
に宣教を始めたイエス。ある日弟子たちに「向こう岸へ渡
ろう」と言われた。イエスは一つの所に留まりたい。多くの
人と新たな出会いを求めて旅を続けられる。▼イエスに
促されて舟を出す弟子たち。その時激しい嵐が舟を襲
い、沈没しそうになる。この嵐にもまれる舟はこれから始
まるイエスの過酷な宣教の旅を象徴している。権力に近
い人々の恨みを買ひ、さまざまな試練や苦難が押し寄
せる...その最終地点がエルサレム、十字架の死である。
▼もしイエスがガリラヤに留まり、支援者に囲まれて過
ごしたならば十字架につけられることはなかっただろう。
しかしイエスは苦しむ人々を救うために旅を続ける。その
決意を表すのが「向こう岸へ渡ろう」という言葉だ。▼弟
子たちは舟を漕ぎ出す。激しい嵐が彼らを襲うが、イエ
スは舟の中で枕をして寝ておられた。弟子たちが「私た
ちが溺れてもいいのですか?」と抗議すると、立ち上がり、
海に向かって「静まれ! 黙れ!」と言われた。すると嵐は
収まり、そして言われた「なぜ怖がるのか! まだ信じない
のか!」▼嵐の中の舟、それはイエスの苦難の旅の象
徴...しかしその中でイエスは安らかに眠っておられた。
神にすべてを委ねることのできた人こそが持てる、本当
の平安な心がそこにある。▼映画『ボン・ヘップファー』の中
で、ナチスの弾圧を避けるためにアメリカに避難したボン
・ヘップファーが、「この困難な時代に仲間のもとを離れてアメリ
カに逃げるのは間違いないのか」と自問し、再び帰国
を決意する場面があった。アメリカに渡る船の中で、彼は
ヨナのような心境だっただろう。しかし帰国する船の中
では、イエスのような心へと導かれたのではないかと
思う。▼これから先、日本は困難な時代を迎えるかも知れない。
そんな時、教会はヨナのように逃げて「ふて寝」を決め込
むのだろうか。そうではなく、イエスのように神のみ旨に
すべてを委ね、神に従う決意と共に、そのような人こそ
与えられる安らかな眠りへと導かれるものでありたい。